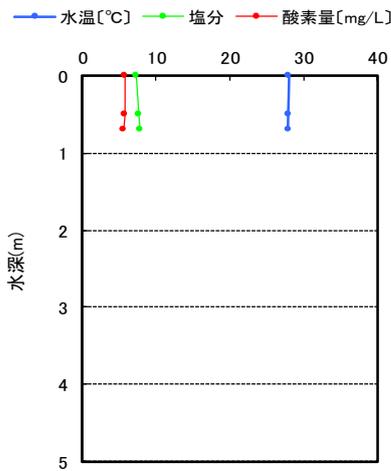


東京都内湾水生生物調査

地点名	多摩川河口干潟	調査年月日	令和元年9月2日	12:09 ~ 12:59
-----	---------	-------	----------	---------------

<調査地点>



<底質状況、底生生物出現状況>



多摩川左岸側(東京都側)の海老取川河口付近の干潟で調査を行った。調査地点の陸側で護岸工事が行われていた(鋼矢板が設置されていた)。

底質はシルト(粒子が砂より細かい泥)が混じった砂であり、臭いはなかった。



設置されていた鋼矢板には、多数のイワフジツボが確認された。

※写真のスケール1目盛:1mm



フルイ上には貝殻片が多く残った。貝殻片に混じてヤマトシジミがみられた。

タカノケフサイソガニ



甲幅3~4cm程になる。日本全国に分布し、河口の転石の下、カキ殻の中、護岸の隙間などに生息する。成体のオスのハサミの付け根に、毛の房がある(写真は未成年)。

ムロミスナウミナナフシ



体長2cm程になる等脚類(フナムシに近い仲間)。細長い円筒状の体をしており、白地に褐色の斑紋がある。干潟の表層部に巣穴を掘って生活する。

<周辺の状況>

ヤマトシジミ



殻長4cm程になる。河口干潟など淡水の影響の強い、砂底から泥底に生息する。日本産シジミは3種類いるが、食用として最も馴染み深い種である。多摩川河口干潟では、様々な大きさのヤマトシジミが採取された。

ヤマトシジミ



ヤマトオサガニ



甲幅4cm程になる。柔らかい水分の多い泥干潟に斜めの穴を掘って巣穴を作る。巣穴の入り口には放射状の浅い溝ができる。